

Green
Pieces

学生による自主的平和活動

— Green Pieces —



Green Pieces は英語情報学科3年生の4人の学生で構成されています。

その活動は平和に関するパンフレットの制作から始まりました。

そして、修学旅行で長崎に来る東京の高校生と平和交流会を行うプロジェクトが加わり、さらに英文のPDFを作成し世界に発信する話に発展しました。Green Pieces の活動はまだまだ広がりを見せています。ほんの小さな偶然をきっかけに始まった活動に、新たな偶然が加わり、気が付けば Green Pieces は平和を目指すグループとしてのアイデンティティをはっきりと示すようになりました。不思議なものです。

ここに聖書の一節を記しておきます。「平和の君」と言われたキリストの言葉です。「私の名によって二、三人が集まるところには、私もまたそこにいる。」彼女たちにぴったりの言葉だと思います。(人文学部長 荒木慎一郎)

平和のガイドブック制作

『私たち大学生が見た—長崎、平和への道』

私たちは今まで長崎県民として小学校や中学校で平和学習をしてきましたが、特別な平和活動をしてきたわけではありません。しかし、私たちは以前から何か平和に



対してできることがないかという思いがありました。2017年5月から平和に関するパンフレット「私たち大学生が見た長崎、平和への道」を制作し、それを通して原爆の実態を伝えることで平和について考えるきっかけになるのではと考えました。このパンフレットは、長崎を訪れる修学旅行生や県内外の同世代に向けたもので、「平和」

への入り口になればという思いも込めています。原爆に関するパンフレットとして、このようなカラフルなデザインに戸惑いや疑問を感じる人がいるかもしれませんが、平和は明るいものであると信じ、この明るさを出したデザインに決めました。内容としては田上市長や被爆者の方、永井隆記念館館長、交流証言者の方へのインタビュー、被爆遺構、山里小学校の平和学習、被爆者の原爆体験記を掲載しています。

都立石神井高等学校との平和交流会

完成したパンフレットは、長崎を修学旅行で訪れる都立石神井高校生に配布し、平和活動の一環として高校生と平和交流会を行いました。交流方法として、7月と11月にスカイプというビデオ通話アプリケーションを通して私たちのパンフレットを使いながら事前学習を行い、修学旅行で長崎を訪れた12月2日には熟議を行いました。熟議とは、主体的かつ対話的な深い学びを指します。当日は、原爆資料館で語り部の方から被爆体験を聞いた高校生280名と、長崎純心大学生約30名とで「長崎で平和について何を感じたか」をテー



マに話し合い、相互に学び合いました。この平和交流会は、高校生と斜めの関係にある大学生と一緒に平和について考える新しい試みでした。前例のないこの試みは当初手探り状態で、緊張と少しの不安がありましたが、Jアラートなどで現実には平和を脅かされていると感じる東京と、原爆を体験した長崎の平和に対する考え方の違いや、高校生の平和に対する熱意を感じる事ができました。活動後に高校生から感想を聞きましたが、平和を考えることがより身近になったと、彼らの中で起こった変化が感じられました。

世界に向けた「平和」の情報発信

英文のPDFは青年アジア平和交流事業として制作しました。「あなたにとっての平和とは？」をコンセプトに、私たちの強みである「英語」と「情報」を活用し、長崎の平和の思いをアジアをはじめとする海外に発信することを目的としています。国境を越えて世界中の人に読んでもらいたいという思いがあったため、日本人特有の文化や価値観を理解できるように工夫しました。例えば、客観的かつ理論的に構成したり、説明を第一にし、自分たちの思いは補足的に加えたり、日本語特有の表現を英語でわかりやすく説明したりしました。他にも英語の記事として違和感がないように、日本語の形式とは異なるレイアウトを考え、ネイティブの講師にチェックをお願いしました。



平和への思いを繋ぐために

原爆が投下された長崎に住む私たちは戦争を起こしてはいけなく、平和な世界にしていきたい、その願いを常に持ち、年に一度その思いを新たにしています。しかし、私たちだけがそう願っていても平和は訪れないことも知っています。この思いを一人でも多くの人に知ってもらい、そして72年前に起こった恐ろしい出来事に関心を持つことで、平和を祈る人が増え、平和な世の中が実現できるのではないかと考えています。

(Green Pieces 泉菜月、小野佐也加、櫻木由佳、迎祐佳)